

ミニバスケットボールにおける現状と課題についての研究

—京都市と亀岡市に焦点をあて—

原田 麻子 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 渋谷 俊浩

キーワード：ミニバスケットボール 選手権大会 指導者

1. 緒言

現在、京都府ミニバスケットボール選手権大会においては、1999年から2010年の10年間の間に優勝・準優勝を成し遂げたチームは亀岡市に多いことが分かった。10年間の中で8回も亀岡市のチームが優勝をしているのが選手権大会の現状である。このことから分かるように、亀岡市はミニバスケットボールが盛んであり、競技成績も京都府内の上位である。この要因は何なのか。そして、亀岡市のミニバスケットボールの指導者に共通する「何か(勝たせることのできる指導法? トレーニング法?)」はあるのだろうか。この共通する要因が分かれば、他の地域にもさらにミニバスケットボールは普及できるのではないかと考える。そして、私たち指導者自身も向上できるきっかけをつかめるのではと考え、本研究を行うに至った。

2. 研究方法

本研究では、京都府ミニバスケットボールに加盟・登録している京都市と亀岡市の女子の指導者(全19チーム、ヘッドコーチのみ)を対象とした。回答者のうち、未記入及び無回答の質問紙を除き、11チーム11名を分析対象とした。

3. 結果と考察

京都市では「指導者の指導歴」「練習頻度」の2項目に亀岡市との大きな差が見られた。

1) 指導者の指導歴

亀岡市では、全ての指導者が7年以上の指導年数を有するという結果となった。一方、京都市では70%という結果であった。このことから、指導年数が長いほど、チームに一貫して段階的な指導を行うことができるため、競技成績も向上していると推測された。

2) 練習頻度

京都市では、週1日から3日の練習を行うチームが84%に対し、亀岡市では週4日または5日が100%を占めているという結果を示した。このことから、練習頻度が高いほど、競技成績も高いことが推測された。また、亀岡市では週4・5日練習することができる環境が十分に整っていることが分かった。

4. まとめ

本研究は、亀岡市・京都市に焦点をあてて行った。その結果、それぞれに独自の指導方針があることが分かった。京都市では選手の将来性を考えて、技術面だけでなくその選手が生きていく上で必要な資質を養うように練習の中で考えさせ、チームの仲間を思いやる気持ちなど、精神面での成長を促す努力をしていることがわかった。一方、今回の調査では亀岡市の方針は明らかにできなかった。

今後は、亀岡市・京都市のみならず、京都府全域のデータを集め、多方面からの比較検証を行うことが重要であり、さらには他府県の指導者にも調査を依頼するなど、より多くのデータを蓄積することが必要であると考えられる。

参考文献

藤田 修一 (1982),

「ミニバスケットボール指導における問題点」

日本体育学会大会号(33), 815.

桑野 勝、 厨 義弘 (1990),

「少年スポーツ指導者の勝利志向が少年スポーツ活動の継続意志に及ぼす影響」

日本体育学会大会号(41A), 110.